

概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 外国語部会

テーマ 『4技能を取り込んだ、ウォーミングアップ場面で使えるreview活動』

提案概要

○ 実践に向けての課題意識

生徒たちは授業に前向きに参加し、互いを思いやり、高め合っていこうとする風土を確立している。また、規範的な意識も身につけており、自分たちで考えて行動することができる。一方、家庭学習が定着しておらず、主体的に学習に取り組むことができない生徒もおり、学習面での伸び悩みが感じられる。そこで、興味をもって授業に臨み、継続的な家庭学習によって、既習の学習内容が定着するように、授業の中でも計画的に復習を組み込んでいる。また、生徒が到達目標を意識しながら、意欲的に取り組める教材作りを心がけ、自ら進んで学習しようとする動機づけができる指導の工夫を意識した。

○ 実践の具体的内容

これまで、授業の最初の5～10分を使って、帯活動として、教科書の音読練習や作文の発表やカテゴリ別の単語テストなどをローテーションで行ってきたが、4技能の統合的な活用を目指して、「コミュニケーションワークシート」を用いた活動を行った。ここでは、「話す・聞く」活動を「書く」活動へとつなげるために言語活動におけるポイントを次のように設定した。

- ①生徒の興味・関心のあるテーマを用いて、生徒が意欲的に取り組めること。
- ②生徒が共有できる写真やイラストを用いること。
- ③決まった生徒同士の活動にならないように、活動のルールを作ること。
- ④会話の記録を1、2人称を用いた会話から、3人称を用いて書けるようにすること。
- ⑤「書く」活動の際には、例を示すことで、どの生徒も自信をもって取り組めるようにすること。
- ⑥同じ内容で5回前後の活動を設定し、スモールステップで目標に向かっていけるようにすること。

○ 成果と課題

英語が得意な生徒は、指定された人数以上の生徒とやり取りし、毎回の活動を楽しみにしている。一方、英語に苦手意識をもっている生徒も、回数を重ねるごとに自分の言葉で言えるようになり、達成感をもてるようになってきている。また、生徒同士の学び合いにより、生徒全体の表現力が向上しているように思う。「話すこと・聞くこと」から「書くこと」、さらに「読むこと」につなげるためには、3年間を通した指導を考えて、工夫して取り組んでいくことが必要であると考えた。

評価については、活動で使用したファイルを集め、「書く」活動の記録を「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価材料としている。また、扱った活動の内容を定期テストの「表現の能力」に関する問題として出題している。課題としては、この活動で身についた表現力を、パフォーマンステスト等でどう見取るかということである。

質疑概要

- ① 質問：苦手な子に対する書くことの評価は難しいのではないかと。
返答：テストでは「表現の能力」で評価する。活動の中で苦手な生徒も取り組めるように配慮しているのでテストでも書こうとする生徒が多い。
- ② 質問：表現の能力を問うテストでは、どのような解答を求めているのか。
返答：生徒には事前にアナウンスしているが、活動の中で聞いたり答えたりした時に使った表現や話したこと、記録に写したことなど、答えの範囲は広く考えている。
- ③ 質問：帯活動を予習として行っているのか、復習として行っているのか。
返答：復習の活動として、本時の主活動とは切り離して考えているが、内容によって主活動につながることもある。

研究協議概要

参加者を7グループに分けて協議を行った。

研究協議の柱として、①「4技能の統合的な活用を目指した、『話す』ことと他の3技能とのつながりを意識した活動について」、②「『話す・聞く』活動から『書く』活動へつなげるための具体的な実践について」、③「授業内でのコミュニケーション活動の評価について」の3つを挙げた。

その3つの柱について各自の学校での取組や考えなどを協議し、発表した。

- ・「話す・聞く」活動から「書く」活動へはインタビュー活動を通して、その結果を3人称に直して表現したり、ワークシートに書かせたりしている。ワークシートは習熟度に合わせて取り組めるように工夫している。
- ・書かせてから話すという実践をしている。
- ・上級生のスピーチの動画を見て、書いてから話す活動をしている。
- ・評価については、単元のゴールを明確にして、その目標に向けての手立てを計画的に示し、評価している。
- ・4、5人のグループ+ALTで話し、コミュニケーションへの関心・意欲・態度や表現の能力の評価をしている。
- ・ターゲットセンテンスを使って話してから、ライティング活動を行う。
- ・キーセンテンスを事前に示し、聞いたり読んだりする活動をしてから、書けるようにする。
- ・評価は、観察、ワークシートへの取り組み状況、ALTとの会話の中でのアイコンタクトや姿勢などについて行っている。
- ・定型フレームを書かせ、テストで出題している。
- ・場面設定をしてモチベーションを高め、各活動への意欲的な取組につなげている。
- ・10マス作り、YesとNoの答えを半分ずつ集めるために、相手の答えを予想して疑問文を考えて活用させる活動をしている。
- ・毎時間ペア活動を実施し、相手に伝えたことを書く活動につなげている。
- ・教科書をベースに単語を変えたり、話の続きを考えたり、意見を加えたりして書いている。
- ・生徒同士で、お互いに添削させ、学びあいの場面を設定している。
- ・修学旅行で外国人にインタビューして、総合的な学習の時間のまとめで発表する横断的な学習を行っている。
- ・実践例として、①インタビュー形式（まとめで文章を書く）、②ディクテーション、③音読→理解 Q&Aで話す、④授業内容のまとめ（聞く・話す）、⑤ゲーム・ペアワークを行わせ、ワークシートに書かせている。
- ・教科書の内容から、内容に関するスピーチ発表へとつなげる活動を設定している。
- ・5人組でアドバイスし合う。
- ・授業内の取組の評価は難しいので学期末のパフォーマンステストにつなげている。

まとめ概要

- 3年間で考えると英語は9教科の中で一番授業数が多いので、教師がそれを自覚し、生徒に何を学ばせたいかを明確にしなければいけない。
- 分からないから苦手になる。教材を工夫して、生徒の興味・関心をひきつけ、飽きさせないことが必要。メリハリをつけ楽しませる。
- 活動を通し、分かる、できるようになる。
- 良い授業づくりのためには、教師と生徒との関係づくりが大切である。
- 3年間で生徒にどんな力をつけさせたいのか、自分が行ってきた活動を振り返り見直す必要がある。教師がねらいを明確にすることが大切である。Can Doリストを用いる。
- 聞いたこと、読んだことに加え、「自分で考えたこと」を表現させることにつなげる必要がある。
- 目標に向かって、個々の活動をデザインし、教師の支援の場面、生徒同士の学びあいの場面、一人で考える場面など、学習形態の工夫も大切である。
- 小・中・高の外国語教育の円滑な連携が大切である。